

～収蔵展示としての活用～

新館収蔵庫では、箱に入らない甕棺かめかんや直置き土器をバックヤードの「収蔵展示」として配置しています。一例として右写真では、弥生時代中期の甕形土器が時代が進むにつれて（写真左から右へ）少しずつ変化する様子を展示しています。改修工事終了後の令和11年度以降に公開する予定ですので、楽しみにお待ちください。



～高所の収蔵品の出し入れ方法～

月隈収蔵庫には高さ5mほどの高層収蔵棚があり、高所にある収蔵品は高所作業車を用いて出し入れします。高所作業車の操縦には資格が必要で、安全を確保しながら収納作業を行っています。



表紙の写真 収蔵資料より

- ・新館1階収蔵庫に「収蔵展示」のために配置された甕棺・土器（左上写真）
- ・本館収蔵庫の収蔵資料から見つかった絵画土器（右上写真）、東海系土器（左下写真）

右上は博多遺跡群で出土した4世紀前後の壺形土器で、線刻で絵が描かれています。この絵は船または簡略化された龍と考えられます。左下はさきさい雀居遺跡（博多区）で出土した3世紀後半頃の東海系土器（受口状口縁台付甕うけくちじょうこうえんだいつきかめ）で、雀居遺跡に東海地方の人たちが来ていたことを示します。

- ・仮置きされた、本館収蔵庫の甕棺（右下写真）

月隈収蔵庫に一時的に仮置きしている大型土器は、収蔵庫の工事完了後に順次戻す予定です。

【問い合わせ先】埋蔵文化財センター（TEL 092-571-2921 FAX 092-571-2825）

編集・発行 / 福岡市経済観光文化局文化財活用部

〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 / TEL : 092-711-4666

福岡市の文化財HP : <https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>



歴史の風

ふくおか文化財だより

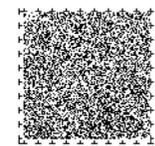
Vol.45

2026年3月号



特集

埋蔵文化財センター改修工事
収蔵資料の大移動！



音声コードのご利用には、Uni-Voiceのダウンロードが必要です。

特集 収蔵資料の大移動！ 埋蔵文化財センター改修工事

福岡市には、土の中から見つかった土器などの発掘品や発掘調査の記録類を収蔵・管理する埋蔵文化財センターという施設があります。開館から40年以上が経過し老朽化が進んだセンターの本館では、令和6～10年度にかけて大規模な改修工事と、これに伴う大量の発掘品や調査記録の移動を行っています。今回は知られざるセンターの改修準備の様子や、その中で「再発掘」された重要な資料をご紹介します。

センター年表

- 昭和57年 埋蔵文化財センター開館（博多区井相田）
- 昭和61年 収蔵庫増築
- 平成11年 本館の東側に新館増築
- 平成28年 月隈収蔵庫開設（博多区月隈）

改修工事の最難関・膨大な資料の避難先は？

本館の収蔵庫には6万箱以上の発掘品と箱に収まらない土器約1300点の資料が収蔵されています。改修工事の前にこれらを移動させておく必要がありますが、積み上げると箱だけでなんとエベレストより高い、およそ9000mにもなります。



▲月隈収蔵庫での収納状況



▲本館収蔵庫(運搬前)

ここまで大量の資料は隣接する新館に入りにきらないため、月隈収蔵庫にも運ぶことになりました。その際、ただ移動させるのではなく資料を選別して移動先を決める必要があります。なぜかという、センターには発掘調査報告書に図面や写真が掲載されている資料があり、これは研究や各地の展示への貸出しなど利用が多く、今後の活用を考慮すると引き続き本館や新館で収蔵しておく必要があるからです。

もっと知りたい！



埋蔵文化財センターの公式ホームページでは改修工事の進捗状況やそれに関わる公開活用業務の再開予定も掲載しています。このほか、主催する考古学講座、主な収蔵資料の紹介なども掲載していますので、ぜひ新着情報をご確認ください。

○福岡市埋蔵文化財センター公式ホームページ <https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/maibun/>

このような経緯でセンターでは現在、改修工事の準備として遺物の詳細な選別と移動という大規模な作業を行っています。

重要資料の再発掘！

発掘品の選別作業は非常に時間がかかりますが、報告書を作成した当時の知見では見過ごされていた、新たな重要資料の「再発掘」にも繋がっています。



▲発掘品①

東区唐ノ原遺跡出土の楽浪土器(壺形)

発掘品①は、弥生時代後期後半=2世紀、中国後漢時代の楽浪郡（現在の平壤付近）で製作されて運ばれてきたと推定される土器です。博多湾岸東側で楽浪土器が確認されたのは初めてです。



▲発掘品②

博多区東光寺剣塚古墳出土の「石製品」
(左:約11cm幅、右:約14.5cm幅)

発掘品②は九州で埴輪とともに古墳の墳丘に立てられた石製品（石製表飾）の一部と考えられ、写真左が石人、右が石鞆（矢を入れて背負う武具）の一部と推定しています。同様の例として筑紫君磐井の墓として知られる、八女市の岩戸山古墳の石人・石馬類（下写真）があります。このような石製品は、5～6世紀の北部九州から中九州の一部の有力古墳で見られないもので、出土した東光寺剣塚古墳の築造時期は「磐井の乱」直後であり、その関連がうかがわれる重要な発掘品です。



▲八女市岩戸山古墳の墳丘の石人・石馬
画像提供：八女市教育委員会

～出土地のナゾ～

石人・石馬などの石製品は本来は古墳の上に立てられるものですが、発掘品②や他の数片は古墳の中にありました。その経緯は不明ですが、同様の石製品片が東光寺剣塚を囲む溝からも出土しており、後世に古墳の中に持ち込まれた可能性があります。